

国内資源循環促進のための金属スクラップの回収拡大・高品質化に向けた調査・実証



【令和9年度要求額 1,850百万円（1,020百万円の内数）】

再生資源の安定供給に向けて、金属スクラップの回収拡大・高品質化を目指します。

1. 事業目的

小規模分散化している国内の資源循環産業においては、動静脈物流の分断や、量・質両面での再生材の需給調整が進んでいないことなどから、大規模・集約化へのインセンティブが十分に働いていない。本事業は、国内資源循環の促進を目的として、金属スクラップの回収拡大や高品質化に向けた調査や実証を行うものである。

2. 事業内容

①重要鉱物をはじめとした金属資源の確保（回収・高品質化）に向けた調査・検討事業

重要鉱物を含む金属資源のサプライチェーン強靱化に向けて、再生資源の回収量拡大や高品質化が重要である。そこで、回収量拡大に向けた物流網の整備や資源管理政策の調査・検討を行う。また、製造業が求める質の再生材を供給するため、マテリアルフロー分析を基にしたサプライチェーン構築に向けた検討等を行う。

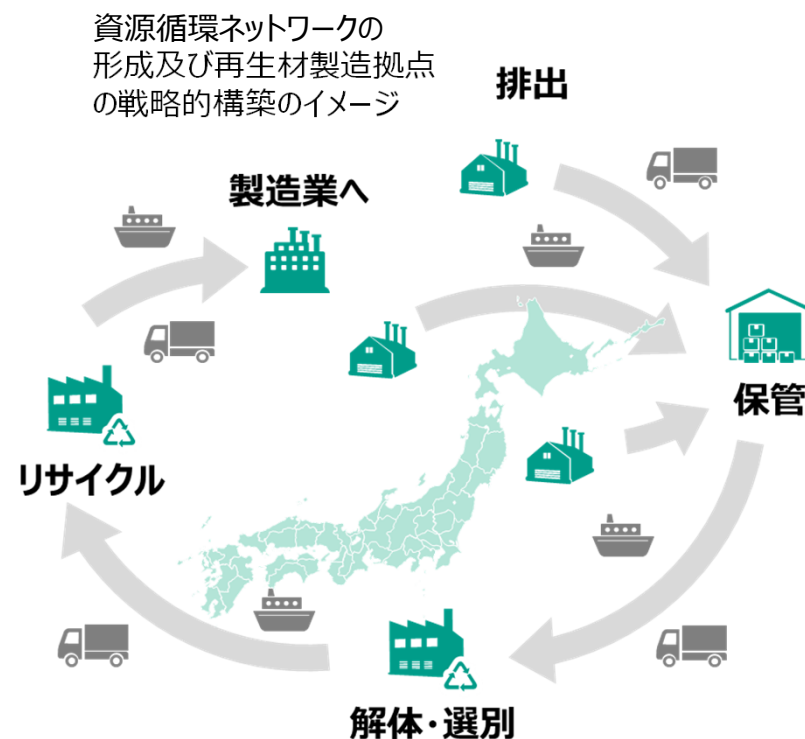
②製造業・資源循環産業の連携及び高度リサイクルを通じた高品質再生材供給実証事業

- ・ **高品質再生材製造実証**：製造業・資源循環産業の協業による、すり合わせを通じた、精緻解体や高度選別などの技術的な実証を行う。（Ex.鉄スクラップ）
- ・ **設備の大規模・集約化実証**：再生材製造施設の大規模・集約化を通じ、製造業へまとまった量の素材を確保するための実証を行う。（Ex.太陽光パネル）

3. 事業スキーム

■事業形態	請負事業・委託事業
■請負先	民間事業者・団体
■実施期間	令和8年度～

4. 事業イメージ





【令和9年度要求額 350百万円（20百万円）】
うち 150百万円（20百万円の内数）

再資源化拠点等の構築及びネットワーク形成や情報開示スキームの活用により、再生資源サプライチェーンの強靱化を目指します。

1. 事業目的

本事業では、資源循環拠点構築・ネットワーク形成に向けた重要鉱物を含む金属資源確保に関する調査・検討や、資源循環分野における日本企業の競争力強化に向けたGCPに基づく情報開示スキームの開発及び資源循環分野への投資促進に向けた支援を実施する。

2. 事業内容

1. 重要鉱物をはじめとした金属資源の確保（回収・高品質化）に向けた調査・検討事業

重要鉱物を含む金属資源のサプライチェーン強靱化に向けて、再生資源の回収量拡大や高品質化が重要である。そこで、回収量拡大に向けた物流網の整備や資源管理政策の調査・検討を行う。また、製造業が求める質の再生材を供給するため、マテリアルフロー分析を基にしたサプライチェーン構築に向けた検討等を行う。

2. GCPに基づく情報開示スキームの開発及び開示情報に基づく投資促進支援

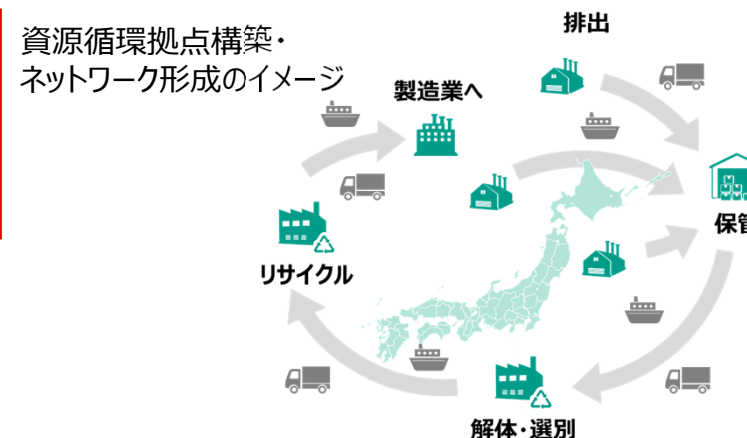
WBCSD（持続可能な開発のための世界経済人会議）等が開発する資源循環分野の国際的な情報開示枠組みであるグローバル循環プロトコル（GCP、環境省が開発に貢献し2025年11月COP30で公表）の改善に向けて、我が国の知見等をインプットし、日本企業の意向を反映した循環経済の国際ルール形成を目指す。

また、GCPに則した開示情報や資源循環分野の投融資ガイダンスを活用した投融資に関するモデル支援を行い、投融資ガイダンスの改善やファイナンス事例の創出を促す。

3. 事業スキーム

- 事業形態 請負事業
- 請負先 民間事業者・団体
- 実施期間 令和8年度～

4. 事業イメージ



資源循環分野の情報開示スキームの開発
(GCP開発貢献)



国内の金融基盤形成に向けた取組

投融資ガイダンスに
基づくモデル支援

ガイダンスの高度化
投融資事例の創出

脱炭素型循環経済システム構築促進事業



【令和9年度要求額 7,700百万円（4,603百万円）】
うち 1,700百万円（1,000百万円）



脱炭素化に資する資源を徹底活用する技術の社会実装に向けた実証事業等を行います。

1. 事業目的

廃棄物・資源循環分野の脱炭素化を進めるために重点的に取り組むべき使用済み製品・素材について、省CO2型リサイクルプロセスの社会実証等に取り組み、循環経済（サーキュラーエコノミー）アプローチを通じた2050年ネットゼロの実現に貢献する。

2. 事業内容

- 活用可能性があり循環経済への寄与が期待されるものの、これまで脱炭素の観点から十分に活用されてこなかった資源を対象として、化石由来プラスチックの代替となるバイオプラスチック等の再生可能資源への転換、複合素材プラスチック及び廃油等の再資源化、高品質な産業向け再生プラスチックの集約拠点の構築に係るリサイクル技術の社会実装に向けた技術実証等を行う。
- 今後大量排出が見込まれる太陽光パネルやリチウム蓄電池等の再エネ関連製品（金属やガラス等のベース素材を含む）について、これら資源の徹底活用に向けて、循環経済アプローチを通じた2050年ネットゼロの実現に貢献する技術の社会実装に向けた実証を行う。
- 製造業・資源循環産業の連携による再生材の質・量両面でのすり合わせに向けて、高品質な鉄スクラップ製造に係る実証や、太陽光パネルリサイクルの大規模集約化・高度化に係る実証を行う。
- 廃棄物の状況や目的とする再生材の品質により、様々な再資源化の方法があり、その廃棄物の種類ごと、再資源化の方法ごとにエネルギー起源CO2の削減効果等が大きく異なるため、様々な再資源化事業について、事業者から実データを収集し、それぞれの実績に基づく削減効果を算出するとともに、その試算方法や結果を参考事例集として公表する。

3. 事業スキーム

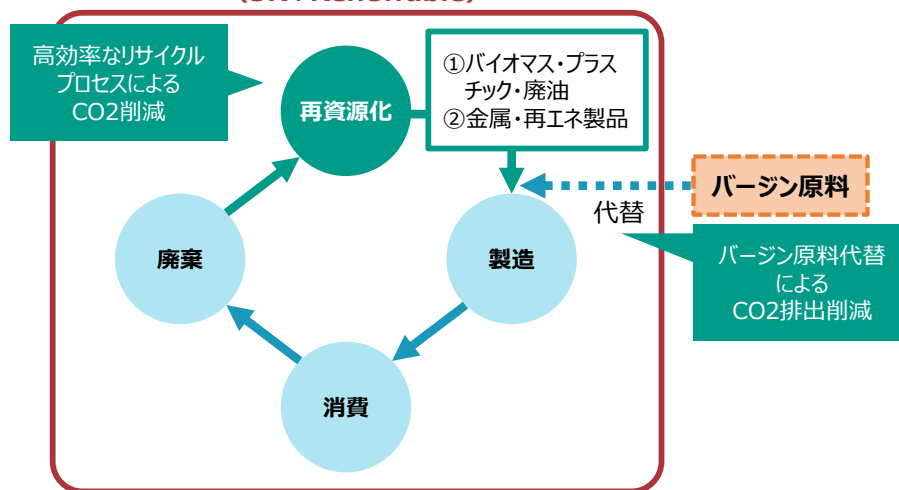
- 事業形態：委託事業、間接補助事業（補助率1/3, 1/2）
- 委託先・補助対象：民間事業者・団体、大学、研究機関等
- 実施期間：（1）令和9年度～令和13年度、（2）令和5年度～令和9年度、（3）令和8年度～令和10年度、（4）令和9年度

4. 事業イメージ

- ・経済安全保障を踏まえた国内資源循環の促進
- ・再エネ関連製品普及に伴うリサイクルプロセスの省CO2化

脱炭素社会・循環経済への
移行に貢献

資源の徹底活用による循環経済アプローチ
(3R+Renewable)



お問合せ先：環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 電話：03-6205-4903 容器包装・プラスチック資源循環室 電話：03-5501-3153
資源循環ビジネス推進室 電話：03-6206-1875 資源循環制度推進室 電話：03-6205-4946
水・大気環境局 海洋環境課 海洋プラスチック汚染対策室 電話：03-6205-4934



1. 事業目的

2. 事業内容

3. 事業スキーム

- ## 4. 事業イメージ

A circular flow diagram illustrating the recycling process in Japan. The cycle consists of four main stages, each represented by a green oval with white text: **排出** (Emission/Discharge) at the top, **保管** (Storage) on the right, **解体・選別** (Dismantling and Sorting) at the bottom, and **リサイクル** (Recycling) on the left. The stages are connected by a continuous grey circular arrow. Between the stages, there are icons representing the transportation and processing of materials: trucks and ships connect the stages, while factory icons with recycling symbols are placed near the **リサイクル** and **解体・選別** stages. In the center of the diagram is a map of Japan, colored in a light green shade.